

【2025年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフ3ぼいんど				
○保護者評価実施期間	2025年11月20日 ~2025年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数)	0人	
○従業者評価実施期間	2026年1月15日 ~2026年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の特性や気持ちに配慮した活動内容と環境づくり	児童の特性や課題を考慮して取り組みを変える等、個別化を図っている。時間配分や活動に集中しやすい環境づくりを大切にしており、無理の無い範囲で集団活動に参加できるように、個別活動と組み合わせることでバランスを取っている。	児童の変化や成長に合わせて活動室内を構造化し、新しいアイテムや新たな遊びを取り入れ、その都度適切な環境づくりを行っていく。児童に合わせてより個別的なツールを作成し、効果を検討していく。見通しが持てるように、事前の声かけ等を大切にする。
2	幅広い年齢層の児童同士の交流	活動の中で自然と異年齢の児童と関わりが持てるように、意図的に同じグループやペアにする等工夫している。異年齢の児童同士でコミュニケーションを取ることで、お互いに刺激し合って社会性を育てるように努めている。	法人内事業所同士で合同イベントを開催したり、地域の児童との交流の機会を増やす事でより多くの年齢層の児童や職員と関わりを持ち、対人スキルや社会性を学べるように促していく。
3	豊富なイベントの企画・実施に努めている。	児童の活動への参加意欲や様子を観察、聞き取りを行う事で楽しめている内容については恒例行事として固定化し、頻度や方法を工夫している。児童の成長に合わせて、できる限り自分で取り組んでもらえるように手順書の作成や人員配置を行っている。	現在も児童から何がしたいか意見を聞き取り、活動内容に反映しているが、今後は児童同士で遊びを考えたり、ルールを決めたり、話し合う議題や時間を意図的に作り、イメージする力の向上や自己決定の経験を増やすこと、協調性を養うことにつなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流など、外部の方と関わる機会が少ない。	他の優先事項が多く、優先順位が低くなってしまっている。個人情報保護の観点から、交流時の活動内容や情報提供の量や方法を検討している。地域で開催されるイベントの情報が不足している。	地域で開催されるイベントや行っている取り組みなどの情報収集を行う。自立支援協議会などを通じて連携を強化し、地域の事業所と合同イベントを企画したり、地域のイベントに参加するための情報漏洩対策を考える。
2	保護者会や研修、勉強会など、情報提供の機会の拡充	上記と同様に職員の業務内容の中で他の優先事項が多く、優先順位が低くなっていく。研修や勉強会の機会を拡充する余力が無い。保護者様もご多忙のため、集客が困難である。	法人内他事業所が行っている保護者カフェ(保護者様の交流、日頃の児童の様子を公開)の実現に向けて情報収集を行う。保護者参加型のイベントを企画・実施できるように方法を検討する。
3	各種マニュアルに沿った訓練の実施と振り返りの拡充	訓練の内容が固定化してきて、新たな課題や解決策について振り返る機会が減っていると感じる。そのため、各種マニュアルの更新ができていない。訓練が必要な事項についての知識が少ない。	自然災害のみでなく、感染症や防犯など、様々な角度から危険を予測して訓練を行っていく。外部研修や勉強会などに積極的に参加し、必要な知識を児童に伝えていく。